

田原市図書館の理念と達成すべき目標

想像力と創造力が息づく田原にー

答申

平成20年 9月25日

田原市図書館協議会

目 次

- 1 はじめに
- 2 田原市図書館の現状
- 3 田原市図書館の理念
- 4 田原市図書館の使命
- 5 達成すべき目標
- 6 参考資料
- 7 田原市図書館協議会委員名簿

1 はじめに

本協議会は平成 19 年 7 月に図書館長から諮問を受け、田原市図書館の理念とそれに基づく使命、さらに図書館活動の達成すべき目標について審議を行ってきた。

まず、田原市図書館の運営状況について、活動実績と経費の両面で他の図書館との比較を行った。その結果、図書館に対する田原市民の満足度は高く、おおむね効果的で効率的な図書館運営が行われていることを確認した。

図書館活動の理念は、地域のあり方と図書館の果たす役割を明確にすることであると考えた。また、使命は理念を実現するための活動内容を定めたものであるが、これは既に田原市図書館条例に規定されていることを確認した。目標については、より良い図書館活動の実現とその継続のための条件を項目とすることにした。

田原市図書館の理念と使命及び目標について審議した結果を答申する。

2 田原市図書館の現状

田原市図書館は、中央、赤羽根、渥美の三館と移動図書館「いずみ号」、「やしの実号」によって運営されている。

田原市図書館の平成 19 年度市民一人当たり貸出点数（総貸出点数 / 人口）は、13.1 点であった。平成 18 年度の図書館統計によると、愛知県内では 1 位の飛島村の 13.6 点に次ぎ、県内 2 位に相当する。平成 18 年度の県内平均は一人当たり 5.96 点、全国平均は 5.01 点である。田原市図書館は平均的な図書館の 2 倍以上の活動実績をあげている。

全国の公立図書館で住民一人当たり貸出点数上位 10%の市町村において、一般会計総額に占める図書館費と資料費の割合を集計した資料がある。（参考資料 1）それによると、人口 5～10 万の市町村で上位 10%にあたるのは 22 市町村であり、その図書館費の平均は 0.97%、資料費は 0.20%であった。

なお、貸出点数において人口 6～8 万人の図書館で上位 10%の平均は、一人当たり 10.5 点であった。（貸出密度上位の公立図書館整備状況・2005 『図書館雑誌』2006 年 5 月号）

田原市図書館の平成 19 年度決算による図書館費は 1 億 6,936 万 704 円、うち資料購入費は 3,423 万 1,108 円である。これは一般会計総額 347 億 1,107 万 8,191 円に対して、それぞれ 0.49%と 0.10%である。田原市図書館は、貸出点数において同規模自治体の上位 10%に含まれるが、図書館費、資料費の一般会計に占める割合はおおよそ 1 / 2 である。

（数値は最新のものを利用した。平成 19 年度図書館統計は未発表）

3 田原市図書館の理念

田原市図書館が目指すのは、田原市民一人ひとりが可能性と幸福を追求でき、地域全体の発展と安定が永続的に営まれる社会である。そのためには、知り、学び、楽しむ機会が誰にでも開かれていることが重要である。

図書館は自由で闊達な議論をもとに、民主的な地域社会を形成するために必要な社会的仕組みである。

図書館が目指すべき活動は、次代を担う子どもたちが、夢や希望を持ち、その実現に向かって力強く行動のできる豊かな人間性を育み、市民の皆さんが、課題に立ち向かい、心豊かに人生を送る、そのために必要な資料や情報の提供である。

4 田原市図書館の使命

市民の資料や情報に対する要求にこたえ、自由で公平な資料の提供を中心とする諸活動によって、市民の文化、教養、調査、研究、レクリエーション等の生涯にわたる学習活動を積極的に援助し、かつ、人々の交流とコミュニティ活動の推進に寄与する。(田原市図書館条例第2条より)

5 達成すべき目標について

市民一人当たり年間貸出点数 20点

現在、教育の成果と方法の両面においてフィンランドが世界中の注目を集めている。フィンランドにおいて、国民一人当たりの年間貸出点数は20点前後と報告されている。読書量が教育の基盤であることに着目して、市民一人当たりの貸出し点数をフィンランドと同水準とする。現状の田原市図書館の実績を50%程度上回るものであるが、今後も市民の要望にこたえ、諸条件を整備することで達成可能であると考えている。

中央図書館の年間来館者数 40万人

図書館は公共施設の中でも、最も集客力のある施設であり、地域活性化への貢献も図書館の役割である。田原中心部への集客に、中央図書館も一端を担っている。40万人は過去最多の平成15年度の実績である。「いつでも、どこでも、誰にでも、何でも」という図書館活動の徹底を図り、講演会や児童へのお話会などの活動にも、より積極的な取り組みを図れば、目標達成が可能となる。

市民満足度の向上

田原市総合計画の施策についての市民意識調査（平成 19 年）では、「図書館の充実」が 1 位であった。今後も図書館活動の評価として市民満足度を重視し、その向上に努める必要がある。

専門職員（司書）の比率 90%以上の維持

平成 20 年度の図書館職員は 34 名である。運転手と臨時職員を除いた 29 名（正規 11 名、嘱託 18 名）のうち、司書資格を持つ職員は 28 名、96.6% である。田原市図書館が効果的な図書館運営を行っている最大の理由は、有能でモチベーションの高い専門職員の存在である。専門職員は現場での経験を積み重ねることによって、判断力や処理能力がさらに高まる。市民への高度なサービスを行うためには、今後も専門職員の比率 90%以上を維持すべきである。

開架資料点数に占める新規資料の割合 15%

開架資料点数に対して、毎年 15%相当の新規資料を受け入れれば、開架書架を平均 6.7 年で更新する。貧弱な蔵書に失望を感じれば、利用者はその図書館に目を向けなくなる。図書館資料で重要なのは、量（点数）ではなく質（利用者のニーズにこたえる資料群）である。利用者が直接手に取る開架資料には、とりわけ新鮮さと利用者ニーズが重要な要素である。

田原市図書館の開架資料点数は、24 万 5 千点（中央 13 万、赤羽根 3 万、渥美 8.5 万）。その 15%に当たる 3 万 6 千 800 点が毎年必要な増加点数である。平成 18 年度の資料購入費は 5 千 882 万 2,649 円で図書、雑誌、視聴覚資料を合わせて 3 万 3 千 252 点を購入した。おおむね 6 千万円の資料費によって、新規資料 15%の達成が可能になる。今後とも資料費の確保に努めてほしい。

6 参考資料

1 貸出密度上位 10%の市町村の図書館費、資料費の普通会計歳出額に占める割合

作成：日本図書館協会

| 人 口 | 対象市町村数 | 図書館費 | 資料費 |
|---------|--------|-------|-------|
| 1 万未満 | 25 | 0.92% | 0.26% |
| 1～2 万 | 30 | 0.86% | 0.25% |
| 2～3 万 | 20 | 0.77% | 0.19% |
| 3～5 万 | 22 | 1.29% | 0.25% |
| 5～10 万 | 22 | 0.97% | 0.20% |
| 10～20 万 | 13 | 1.30% | 0.15% |
| 20 万～ | 10 | 0.84% | 0.11% |

人口段階別に貸出密度（住民一人当り貸出数）上位 10%の市町村（政令指定都市、特別区除く）の普通会計歳出総額に占める図書館費（人件費を含む）、資料費の割合をみた。（『日本の図書館 2005』、『市町村別決算状況調 2003 年度』）

2 「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」文部科学省告示（平成 13 年）

（3）図書館サービスの計画的実施及び自己評価等

公立図書館は、そのサービスの水準の向上を図り、当該図書館の目的及び社会的使命を達成するため、そのサービスについて、各々適切な「指標」を選定するとともに、これらに係る「数値目標」を設定し、その達成に向けて計画的にこれを行なうよう努めなければならない。

公立図書館は、各年度の図書館サービスの状況について、図書館協議会の協力を得つつ、前項の「数値目標」の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行なうとともに、その結果を住民に公表するよう努めなければならない。

7 田原市図書館協議会委員名簿

| | 氏 名 | 分 野 |
|------|-------|-------|
| 委員長 | 中島 保 | 学校教育 |
| 副委員長 | 永田みよ江 | 学識経験者 |
| 委員 | 河辺弘之 | 学校教育 |
| 〃 | 林 俊信 | 学校教育 |
| 〃 | 中島慶子 | 学識経験者 |
| 〃 | 大場滋子 | 学識経験者 |
| 〃 | 古橋雄太郎 | 学識経験者 |
| 〃 | 山内振一郎 | 学識経験者 |
| 〃 | 山田政俊 | 学識経験者 |
| 〃 | 鈴木美代子 | 学識経験者 |